

専門職による家族介護者支援の現状

- 地域包括支援センターにおける介護者の会への関わりから -

埼玉県立大学 小川孔美 (会員番号 004527)

介護者の会 地域包括支援センター 介護者支援

1. 研究目的

2009年11月に行われた National Care Association Annual Conference において、David は人々の経験を通してケアの改善を確立していくことの重要性を提唱し、「認知症への対応」「介護者への対応」についての見直しはもちろんのこと、これまで軽視されがちであった、介護がこれから必要となる人々へ、まず最初に今後の変化課題について説明する事の大切さ、今現在の人々のケアの現状をもっと評価する事の必要性を説いている。¹⁾

我が国においても2010年6月7日、「ケアラー連盟発足集会」において、「介護者支援の推進に関する法律案(仮称)」政策大綱(素案)²⁾が提案され、「国民の誰もが「被介護者」になり、また、「介護者」になる蓋然性が極めて高いこと、しかも、介護問題は、医療や年金など他の問題と比べて、はるかに一律的な問題処理に適さない多様性のあるものであって、そこでは「個人としての尊厳ある生き方」を前提にした制度設計が求められる」(介護者支援の推進に関する法律案<仮称>P2)と明言された。

現在、日本では介護保険制度によって、ショートステイやデイサービスなどの要介護高齢者への居宅サービスは普及したものの、そのサービスには、利用料(給付額)の上限があり、また社会資源としてその内容や量が充実しているとは言い難い。そのため、家族介護者の負担感や抑うつ感は解消されているとはいえず、結果、介護者の負担感の軽減や、生活の質の向上のための家族介護者支援方法の確立が今求められている。

A区では、保健福祉計画(H18年~22年度)の中に「介護者の会への支援」を位置付け、在宅介護者が、悩みや不安を安心して話したり、情報交換する場としての「介護者の会」の活動をこれまで支援してきた。結果、古くから地域で活動している家族会に加え、新たな「介護者の会」が立ち上げられ、現在までに14の介護者の会がA区内で続けられている。

本調査では、A区において、保健福祉計画のなかに位置づけられ、取り組まれてきた「介護者の会への支援」に関する現状と課題について、地域の高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続するため、総合相談支援業務を行いつつ、地域包括ケアを支える「地域包括支援センター」職員を対象に調査を行い、介護者支援のあり方を検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

A区内にある20の地域包括支援センターおよびA区高齢者在宅支援課を対象に、郵送法によるアンケート調査を行った。調査期間は平成22年10月から12月とした。

主な設問項目は以下のとおりである。 担当する区域において、介護者の会があるか。

担当区域の介護者の会を利用者に紹介する頻度 「介護者の会」をどのようなときに紹介するか 「介護者の会」を誰に紹介するのか 「介護者の会」の必要性 「介護者の会」への行政支援の必要性

3. 倫理的配慮

アンケートは対象者に文書にて調査の目的を説明し、参加は自由意志であることを伝え、個人が特定されないよう分析した。また、調査実施前に埼玉県立大学の倫理審査委員会にて研究申請を行い、承認を得た。

4. 研究結果

回収 65 部（回収率 55%）、有効回答 63 部（有効回答率 96%）であった。

(1) 対象者の背景

性別は女性 82%、男性 18%であった。勤続年数は「10年以上」35%、「6～9年」26%、「4～5年」15%、「2～3年」14%、「1年未満」9%であった。年齢別では、30代が最も多く34%、以下50代（28%）、40代（19%）、20代（13%）と続く。

資格所有別では、ケアマネジャーが最も多く28%、ソーシャルワーカー20%、主任ケアマネジャー13%、看護師、介護福祉士が同率の11%、の順であった。

(2) 担当区域の「介護者の会」の理解度と利用者への紹介

担当区域に「介護者の会」がある地域包括支援センターが92%であった。「介護者の会」がある場合は、「開催曜日」「開催時間」「開催場所」それぞれについて90%以上の高率で理解を示していた。また、「介護者の会」に参加希望の利用者に教える連絡先としては、「介護者の会の代表」15%に比し、地域包括支援センターの連絡先を教える場合が87%と最も多かった。また、介護者の会を利用者の方に紹介する頻度については、「よく紹介する」が18%、「たまに紹介する」が63%となっており、8割近くが紹介する姿勢を持っていた。

利用者に「介護者の会」を紹介する際のタイミングとして「介護者の会をどのような時に利用者に紹介するか」については、「介護のことで悩んでいるとき」19%、「他の介護者の方の意見を聞きたいと思っているとき」「介護が大変だと言っているとき」が共に18%、「介護が苦痛だと言っているとき」が16%、「介護者が疲れているとき」が15%と高くなっていた。

一方、介護初期の「介護保険申請の時」は2%「初回訪問時の時」は1%とほとんど紹介されていなかった。また、「介護者の会」を紹介する対象は、「実際に介護している人」が52%と最も多く、続いて「ケアマネジャー」24%、「実際に介護をしている本人と同居している家族」17%の順であった。（その他の結果、考察については当日報告する）

1)www.nationalcareassociation.org.uk/.../2009%20conference/David%20Behan.ppt

2)<http://carer.s378.xrea.com/kaigohou..pdf>

特定非営利活動法人さいたまNPOセンター。介護する人を支えたい。(2010);64-67